

MATSU DOING 2050

わたしがつくる!
まつどのみらい

[かわら版] #6



第6回まちづくりワークショップが オンラインで開催されました!



[https://
www.facebook.com/
MATSUDOING2050/](https://www.facebook.com/MATSUDOING2050/)



COVID-19の感染拡大防止のためオンラインで第6回ワークショップが開催されました。「もう一度、まちづくりを考える『わたしがつくる!まつどの公共空間』とは」というテーマで、専門家と参加者の意見を重ねました。

色々な方々が一緒になって議論をしていくまちづくりの大切さを話していただきました。

STEP 1 | 3/19-3/31 動画公表・意見募集1

日時=2020年3月19日-7月3日

方式=オンラインおよび郵送による応答

岡本真 | おかもとまこと
アカデミック・リソース・ガイド

横張真 | よこはりまこと
東京大学大学院工学系研究科教授

宮城俊作 | みやぎしゅんさく
東京大学大学院工学系研究科教授

秋田典子 | あきたのりこ
千葉大学大学院園芸学研究科准教授

藤村龍至 | ふじむらりゅうじ
東京藝術大学大学院美術研究科准教授



横張真氏 冒頭あいさつ
はじめに横張真氏より今後もフラットに



コーディネーターである藤村龍至氏との対話形式で、図書館を中心に各種の文化施設など公共施設について詳しく、自治体等で専門家としてアドバイザーをされている岡本真氏から福島県須賀川市の事例をもとにお話を頂きました。対話の主なポイントは次の3点です。

- 1 | 須賀川市は東日本大震災の復興として庁舎と市民交流施設など公共施設の全体を一体で作り直すという稀有な経験をした。
- 2 | 中心市街地のまちづくりを、公共施設や公共空間のあり方を考えることでリニューアルしていこうという目標そのものは、「MATSUDOING2050」で考えようとしていることと重なる部分も多い。
- 3 | 庁舎、市民交流施設と箱(=施設)単位で考えてしまうのではなく、市民の皆さんが「何をしたいのか=wish」から入って機能の再編を考えていくことが必要。



お二人の対話を受け、ワークショップ参加の皆様に投げかけを行いました。

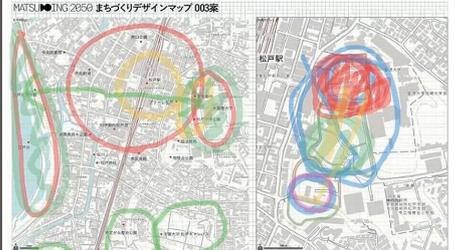
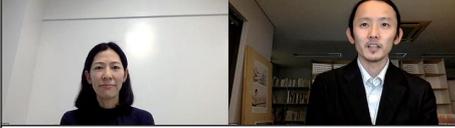
- Q1** | あなたが松戸で叶えたい「wish(=何をしたいのか)とは?
Q2 | あなたが松戸で叶えたい「wish」を叶える公共空間とは?

参加者からの意見募集結果1(抜粋)

- Q1** | 美術を学ぶ。文化の発信
Q2 | 図書館や美術館等の融合施設
Q1 | 松戸に住む、訪れる、人と人の繋がりをつくること
Q2 | 文字通り空っぽのスペース。屋外なら芝生広場、屋内なら防音空間
Q1 | 松戸中央公園で、パンを食べたり景色を眺めながらゆったりと過ごすこと
Q2 | 駅から台地へのアクセス向上、居心地の良い空間、景観に配慮した建物
Q1 | 歩いて楽しいまちづくり
Q2 | 水辺と緑と歴史を生かし、回遊性を確保し、開放感あるまちづくり
Q1 | 市民ボランティアとして活躍したい
Q2 | 強靱なHQ機能とコモンスペース
* 意見全文は松戸市HPを参照ください。

STEP 2 | 4/1—4/12

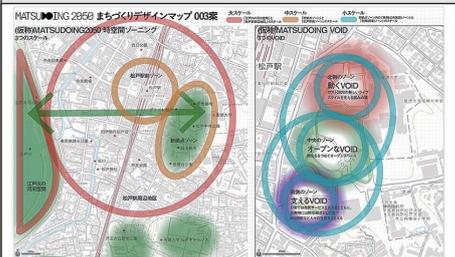
デザインマップ003案の作成



横張・宮城・秋田・藤村の4氏により、参加者から募集した意見と、コロナ禍で現れたまちづくりの新しい課題を踏まえて、デザインシャレットをオンラインで実施し、デザインマップを作成しました。

STEP 3 | 4/13—4/21

デザインマップ003案の公表・意見募集2



専門家からの「5つの問いかけ」

- 1「まちなかのサービスと空間は再定義されるべきではないか」
- 2「まちはそこにしかない繋がりや運営されるべきではないか」
- 3「まちの公共空間はONとOFFの切り替えが大事なのではないか」
- 4「郊外のまちの価値は空間の余白にあるのではないか」
- 5「まちづくりには動く余白が必要なのではないか」

専門家からの「2つの提案」

- 1「(仮称)MATSUDOING2050 時空間ゾーニング」という全体の捉え方
- 2 戦略的拠点「(仮称)MATSUDOING VOID」の設定

参加者からの意見募集結果2 (抜粋)

- 消費や生産性が低く、ゆるーい場所が必要。余白を維持する余裕を持てるかが課題。
- 松戸駅前ゾーンは30年後の完成まで、今回のWSのように市民との話し

合いの大切さを市役所に理解して頂きたい。| ●長期的な時間軸の中で余白のようなものはあってもよいと思います。災害時の防災拠点や避難所として活用、お祭りやイベントなど何にでも活用できる部分が必要。*意見全文は松戸市HPを参照ください。

STEP 4 | 4/22—7/3

デザインマップ004案の作成・公表

参加者からの意見の全てを専門家の4氏が読み合わせを行い、改めてオンライン上で意見交換してデザインマップ004案を作成しました。(問いかけや名前の設定が抽象度が高いとのご意見を多く頂いた部分について特に見直しました)

[1] 全体の捉え方=

「MATSUDOING2050 3つのゾーン」

- 1「新拠点ゾーン」=まち全体に波及していくような新しい人のつながりや動きが生まれる「MATSUDOINGが生まれる」ゾーン
- 2「松戸駅前ゾーン」=既存のまちに新しい人のつながりや動きが影響を与える「MATSUDOINGが育てる」ゾーン
- 3「大きな松戸ゾーン」=小さな場のネットワークに新しい人のつながりや動きがつながる「MATSUDOINGが広がる」ゾーン

[2] 戦略的拠点=

「MATSUDOING2050 3つの場」

- 1北側のゾーン:「試みの場」
- 2中央のゾーン:「オープンな場」
- 3南側のゾーン:「支える場」

[全6回の総括]

横張氏コメント

皆さんと回を重ねてきたワークショップは、市民と行政が力を合わせ、新しい現実のなかでより良いまちをつくってい

く、その種となったと思います。この種を芽吹かせ、大樹へと生長させることができたとき、松戸はwith-Corona/post-Corona時代をリードするまちへと変貌するでしょう。

宮城氏コメント

皆さんとつくりあげた今回の提案は、当初の想定よりも曖昧なものではありますが、今後のまちづくりにおいては、そのことがとても大事だと思います。特に東京との関係における松戸の地理的な位置において、新拠点ゾーンの中核となる空間が、この曖昧さを維持しつづける場所であることの意味を今一度皆さんと共有できれば幸いです。

秋田氏コメント

市民の皆さんとのワークショップは、松戸で10年以上働いてきた私にとっても発見に満ちたものであり、楽しく充実した時間でした。社会の状況は大きく変化していますが、自分たちの街を自分たちの力で変えてゆくという皆さんのパワーこそが、新しいまちづくりの源です。

藤村氏コメント

初回からずっとジェンダーバランス、ジェネレーションバランスの調和した「小さな公共空間」が現れたと感じました。どんどん新しい意見が集まる様子を見て、松戸で新しいことが起こりそうだという期待を感じました。今後も今までの議論を引き継いで発展させるご提案を続けたいと思います。

本ワークショップは全6回をもって終了となりますが、MATSUDOING2050は新たな取り組みを含め、新しい形で継続していきます。よろしくお願いいたします。

まちづくりデザインマップ004案

